

はじまりはガンジーのシャンティ・セナ



1941

地球市民による非武装・非暴力の紛争予防——このアイデアは、マハトマ・ガンジーが提唱したシャンティ・セナ(平和部隊)にさかのぼります。ガンジーはシャンティ・セナをインド全土に広げる活動のなか、暗殺者の凶弾に倒れました。非暴力平和隊は、このガンジー未完の構想を21世紀に継承し、世界大に広げようとしています。

9

日本国憲法9条を
世界で実践する
チャレンジ

非暴力平和隊は武力によらない世界平和をめざす日本国憲法9条の実践です。武力の行使や戦争に反対の声をあげるとともに、非武装・中立の市民が世界の紛争地におもむき、監視・護衛的同行などの方法で人権侵害や紛争の暴力化を予防し、現地の人たちの手による紛争解決を支援する活動がいま、国際社会に求められています。

9名のノーベル平和賞受賞者が
賛同しています。



オスカー・アリアス(コスタリカ)
ダイライ・ラマ14世(チベット)
アドルフォ・エスキベル(アルゼンチン)
ラモス・オルタ(東ティモール)
リゴベルタ・メンチュー(グアテマラ)
レフ・ワレサ(ボーランド)
マイレード・マグワイア(北アイルランド:写真)
国際平和ビューロー(スイス) デスマンド・ツツ(南アフリカ)



市民による非暴力の紛争予防・平和維持——その実践的プロジェクトを
武力衝突が続くスリランカ、フィリピンでスタートさせました。

2003→Sri Lanka 2007→Philippines



ミンダナオのコタバトに拠点を置き、国内避難民の保護、活動家への護衛的同行等を提供するとともに人権侵害を記録。



スリランカでは4地域にて選挙監視、難民・少年兵の保護、異民族間の話し合い促進などの活動に従事。日本からもこれまでに2名がビースチームに参加。



グアテマラで2007年、大統領選挙を含む国政選挙において、人権活動家への脅迫が激化し、護衛的同行のため、10ヵ月間の緊急派遣をおこなった。



世界各地からの 派遣要請を受けて



世界の紛争地から非暴力平和隊に、「ビースチームを派遣してほしい」という要請が数多く寄せられています。ウガンダ、コロンビアなどで新たなプロジェクトを立ちあげる準備調査をおこなっています。

非武装・非暴力の紛争予防 優れている、こんな点

- 武器を持たないので、犠牲者が極めて少ない。(紛争に巻き込まれにくい)
- 現地に受け入れられやすいので、要請も多い。
- 非暴力の文化を創造できる。
- 状況変化に応じて、平和運動家や人道援助活動に対する護衛的同行、誘拐の防止、選挙監視など、柔軟な対応が可能。

非暴力平和隊・日本の賛同人の方々

大石 芳野(写真家) 落合 恵子(作家) 神田 香織(講談師)
信楽 岴麿(元龍谷大学学長) 広河 隆一(フォト・ジャーナリスト)
宮田 光雄(東北大名誉教授)